

障害児保育に関する研究

——地域住民の認識調査からの考察——

研究第7部 高橋種昭・野田幸江

I. 調査目的

障害児に関して地域住民が如何様な認識をもっているかを知ることは、障害児の福祉の向上のために非常に重要である。そのため昭和48、49年に、われわれは東京都の保育所の保育者、父兄を対象に質問紙調査を行ったが、今回は更に範囲を広げ、広く一般住民がどのように障害児というものを認識しているかを知ることを試みた。

つまり、一般住民が障害児に対し、どのような関心をもち、どの程度の知識を学び、如何様な障害児観を身につけ、実際に障害児の問題にどのような関わり方をしていくかを知ろうとしたわけである。特に健全児との統合保育や統合教育がさかに行われるようになり、一般の地域住民にとって障害児の存在が非常に身近になった今日においては、彼等にとっても、決してそれは他人事として片付けられる問題ではなくなってきたのである。従って前述した如く、彼等がどのような障害児観をもち、どのような関心を日頃もっているかを知ることが、障害児保育を今後進めてゆくためにも非常に大きな意義をもつわけである。

II. 調査方法

今回は前回使用した質問用紙の内容を少し改訂し15項目にし、前回は無答が非常に多かったので、調査員が戸別に家庭を訪問し、質問紙を直接配布し、その場で記入を求めた。調査員はS短期大学社会福祉学科の学生で、障害児保育の教科を学んでいる者達である。

質問項目は、目的のところでも述べた如く、障害児に関する関心、障害児観、知識、障害児との関わり方の経験、行動などに関したものである。

〔質問項目〕

- (1) 新聞や雑誌に、障害児についての記事がのっているのを見つけた時、それを読もうとしますか。
- (2) あなたは、税金を使うとしたら、障害児教育と優秀児教育のどちらに多く使った方がよいと思いますか。
- (3) 精神薄弱児の大半は遺伝だと思いませんか。

(4) 街角で障害児のための募金などをしているのに出会うことがありますか。

その時、あなたはそれに応じますか。

(6) 精神薄弱児と遊ばせると、自分の子どもにあまりよくない影響があると思いませんか。

(9) 障害児がいじめられたり、からかわれているのを見たことがありますか。

その時、あなたはかばってあげますか。

(7) 一人の子どもに多額の費用がかかる重症心身障害児施設は必要だと思いませんか。

(8) 障害児には特別の手当のあることを知っていますか。

(9) 町の中で障害児を見かけた時、その子どもや親の気持について考えてみることがありますか。

(10) 知人や友人との話の中で、障害児のことを話題にすることがありますか。

(11) テレビで障害児の問題を扱った番組があるのを知った時、あなたはそれを見ようと思いませんか。

(12) 障害児の親達は、子どもを普通児と同じクラスで学ばせたいと思っていますが、あなたはそれをどう思いますか。

(13) 障害児のために役立つことを何かしたことがありますか。

(14) 障害児のために役立つことを何かしてみたいと思うことがありますか。

(15) あなたのお子さんが、障害児と遊ぶことがありますか。

その時、あなたはどうしますか。

(16) 心身障害児のための収容施設の目的は何であると思いませんか。

質問紙の配布対象は、幼稚園、保育所、小学校に就園、就学している子どもをもつ母親であり、地域は東京都・関東地区(4県)、山静地区(2県)、信越地区(2県)、東北地区(4県)と非常に広範囲にわたっている。対象とした母親の年齢とその子ども数は、第1、第2表の如くである。調査は、昭和53年10月～11月の間に行な

第1表 記入者年齢

年 齢 (歳)	地域						計
	20歳以下	21~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳	41歳以上	
地域	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数
東京都	2 (0.6)	14 (4.0)	85 (24.6)	112 (32.4)	91 (26.3)	42 (12.1)	346
関東 (東京都以外)	2 (0.6)	26 (7.5)	106 (30.5)	110 (31.6)	73 (21.0)	31 (8.9)	348
山梨・静岡	1 (0.7)	5 (3.7)	38 (28.4)	45 (33.6)	34 (25.4)	11 (8.2)	134
信越	0 (0.0)	7 (7.0)	21 (21.0)	31 (31.0)	25 (25.0)	16 (16.0)	100
東北	0 (0.0)	6 (8.1)	27 (36.5)	21 (28.4)	14 (18.9)	6 (8.1)	74
計	5 (0.5)	58 (5.8)	277 (27.6)	319 (31.8)	237 (23.7)	106 (10.6)	1002

第2表 子どもの数

子どもの数(人)	地域				計
	1人	2人	3人	4人以上	
地域	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数
東京都	85 (24.6)	198 (57.2)	55 (15.9)	8 (2.3)	346
関東 (東京都以外)	84 (24.1)	204 (58.6)	55 (15.8)	5 (1.4)	348
山梨・静岡	15 (11.2)	89 (66.4)	28 (20.9)	2 (1.5)	134
信越	22 (22.0)	54 (54.0)	24 (24.0)	0 (0.0)	100
東北	8 (10.8)	46 (62.2)	16 (21.6)	4 (5.4)	74
計	214 (21.4)	591 (59.0)	178 (17.8)	19 (1.9)	1002

た。

Ⅲ 調査結果、考察

(1) 障害児に対する関心

前述した如く、最近では統合保育や統合教育の問題が、健全児をもつ親達にとっても、障害児というものを非常に身近な存在としてとらえさせるようになっていくことは事実である。また、マスコミの報道などを通じて得る情報が、過去に比べればはるかに多くなっていることも、親達の障害児への関心を高めさせる大きな要因の一つにあげられよう。

今回の調査では、次の4項目から母親達の障害児に対する関心についてきいてみたわけであるが、その関心はかなり高いものがあつた。

質問(1) 新聞や雑誌に障害児についての記事がのっているのを見つけた時、それを読もうとしますか。

質問(2) 町の中で障害児を見かけた時、その子どもや親の気持について考えてみたことがありますか。

質問(3) 知人や友人との話の中で、障害児のことを話題にすることがありますか。

質問(4) テレビで障害児の問題を扱った番組があるのを知った時、あなたはそれを見ようとしていますか。

最初の新聞や雑誌に障害児についての記事がのっているのを見つけた時にそれを読むか、という質問に対しても、「全く読まない」と答えたものはごく僅かである。

第3表 新聞や雑誌に障害児についての記事がのっているのを見つけた時、それを読もうとしますか。

地域	答			計
	読む 数 (%)	時々読む 数 (%)	読まない 数 (%)	
東京都	193 (55.8)	145 (41.9)	8 (2.3)	346
関東 (東京都以外)	184 (52.9)	157 (45.1)	7 (2.0)	348
山梨・静岡	72 (53.7)	56 (41.8)	6 (4.5)	134
信越	51 (51.0)	47 (47.0)	2 (2.0)	100
東北	38 (51.4)	28 (37.8)	8 (10.8)	74
計	538 (53.7)	433 (43.2)	31 (3.1)	1002
昭和49年度	624 (49.6)	614 (48.8)	10 (0.8)	1259 N.A.11 (0.9)

第4表 テレビで障害児の問題を扱った番組があるのを知った時あなたはそれを見ようと思えますか。

地域	答		計 数
	見る 数 (%)	見ること もある 数 (%)	
東京都	131 (37.9)	204 (59.0)	346
関東 (東京都以外)	137 (36.5)	195 (56.0)	348
山梨・静岡	51 (38.1)	78 (58.2)	134
信越	37 (37.0)	58 (58.0)	100
東北	36 (48.7)	31 (41.9)	74
計	392 (39.1)	566 (56.5)	1002

第5表 町の中で障害児を見かけた時その子どもや親の気持ちについて考えてみる事がありますか。

地域	答			計 数
	いつも 考える 数 (%)	考える事 もある 数 (%)	考えない 数 (%)	
東京都	178 (51.4)	162 (46.8)	6 (1.7)	346
関東 (東京都以外)	157 (45.4)	187 (53.7)	3 (0.9)	348
山梨・静岡	51 (38.1)	80 (59.7)	3 (2.2)	134
信越	47 (47.0)	53 (53.0)	0 (0.0)	100
東北	29 (39.2)	40 (54.1)	5 (6.8)	74
計	463 (46.2)	522 (52.1)	17 (1.7)	1002
昭和49年度	728 (57.8)	508 (41.3)	15 (1.2)	N. A. 8 (0.6) 1259

第6表 知人や友人との話しの中で障害児の事を話題にすることがありますか。

地域	答			計 数
	よく話題 にする 数 (%)	話題に する事 もある 数 (%)	話題に しない 数 (%)	
東京都	33 (9.5)	245 (70.8)	68 (19.7)	346
関東 (東京都以外)	35 (10.0)	251 (72.1)	62 (17.8)	348
山梨・静岡	15 (11.2)	98 (73.1)	21 (15.7)	134
信越	6 (0.6)	81 (81.0)	13 (13.0)	100
東北	3 (4.1)	50 (67.6)	21 (28.4)	74
計	92 (9.2)	725 (72.4)	185 (18.5)	1002
昭和49年度	99 (7.9)	875 (69.5)	266 (21.1)	N. A. 19 (1.5) 1259

東北地区の場合は、約1割のものが読まないと答えてい

るが、他の地域は「読まない」とするものはそれぞれ2～4%の数である。(第3表)

また、テレビで障害児の番組をみるか、という問に対しても、「全くみない」ものはこの場合もごく僅かであり、殆んどのがそれを見ようとしている。(第4表)

こうした障害児に関する記事や番組は、年々増加し、時には大々的なキャンペーンがなされたりしているが、このような数字をみても、その効果はかなりあるように思える。そして多くの人が障害児に関心を向け、いろいろに考えたり、友人との間の話題にしたりしているのである。

障害をもった子どもや、その親の気持ちについて約半数の人々が、常にそうした不幸を背負った人々のことについて思いをい込んでいることとからみても、彼等がこうした問題を非常に身近なものとして考えていることがわかる。友人との間の日常の話題にするかどうかということになると、ややその数字は減少するが、まだ過半数の人々が障害の問題を時々友人との間の話し合いの話題としている。しかし、この場合にも、東北地区では3割近くの母親が「話題にすることはない」としており、まだまだ地域によってはこうした問題についての関心が必ずしも高くないことを示している。東北以外の他の地域では全く話題にしないケースは2割弱という数字である。

2) 障害児親

次の4項目は、母親達が障害児というものを如何様にみているかをきいたものである。

質問② あなたは、税金を使うとしたら、障害児教育と優秀教育のどちらに多く使った方がよいと思えますか。

質問③ 精神薄弱児と遊ばせると、自分の子どもにあまりよくない影響があると思えますか。

質問④ 一人の子どもに多額の費用がかかる重症心身障害児施設は必要だと思いますか。

質問⑤ 障害児の親達は、子どもを普通児と同じクラスで学ばせたいと思っていますが、あなたはそれをどう思えますか。(第7～10表)

この中で質問②と質問⑦は、財政的な面から障害児の問題についてきいたものであり、質問⑥と質問⑧は、わが子との関係で、障害児をどうみているかをきいたものである。

しかし、質問②と⑦の場合は、質問の方法に問題があったともいえ、答がどうもあたりさわりのないものになってしまった感じはまぬがれない。もし、この数字をそのままに解釈すれば、母親達の多くは、非常に障害児の

第7表 あなたは税金を使うとしたら、障害児教育と優秀教育のどちらに多く使った方がよいと思いますか。

地域	答		計	
	障害児へ 数 (%)	どちらとも いえない 数 (%)		優秀児へ 数 (%)
東京都	219 (63.3)	125 (36.1)	2 (0.6)	346
関東 (東京都以外)	212 (60.9)	133 (38.2)	3 (0.9)	348
山梨・静岡	84 (62.7)	50 (37.3)	0 (0.0)	134
信越	58 (58.0)	42 (42.0)	0 (0.0)	100
東北	44 (59.5)	29 (39.2)	1 (1.4)	74
計	617 (61.6)	379 (37.8)	6 (0.6)	1002

第8表 精神薄弱児と遊ばせると自分の子どもに、あまりよくない影響があると思いませんか。

地域	答			計
	思う 数 (%)	よくわから ない 数 (%)	思わない 数 (%)	
東京都	9 (2.6)	132 (38.2)	205 (59.2)	346
関東 (東京都以外)	15 (4.3)	154 (44.3)	179 (51.4)	348
山梨・静岡	9 (6.7)	57 (42.5)	68 (50.7)	134
信越	8 (8.0)	38 (38.0)	54 (54.0)	100
東北	3 (4.1)	41 (55.4)	30 (40.5)	7
計	44 (4.4)	422 (42.1)	536 (53.5)	1002
昭和49年度	129 (10.2)	568 (45.1)	540 (42.9)	N.A. 22 (1.7) 1259

第9表 一人の子どもに多額の費用がかかる重症心身障害児施設は必要だと思いますか。

地域	答			計
	思う 数 (%)	どちらとも いえない 数 (%)	思わない 数 (%)	
東京都	265 (76.6)	77 (22.3)	4 (1.2)	346
関東 (東京都以外)	263 (75.6)	77 (22.1)	8 (2.3)	348
山梨・静岡	93 (69.4)	38 (28.4)	3 (2.2)	134
信越	91 (91.0)	9 (9.0)	0 (0.0)	100
東北	60 (81.1)	14 (18.9)	0 (0.0)	74
計	772 (77.0)	215 (21.5)	15 (1.5)	1002

問題に理解があり、申し分ないわけである。しかし、質問②の場合には「どちらとも言えない」と答えた40%近

第10表 障害児の親たちは、子どもを普通児と同じクラスで学ばせたいと思っていますが、あなたはそれをどう思いますか。

地域	答			計
	賛成 数 (%)	どちらとも いえない 数 (%)	反対 数 (%)	
東京都	118 (34.1)	208 (60.1)	20 (5.8)	346
関東 (東京都以外)	91 (26.1)	225 (64.7)	32 (9.2)	348
山梨・静岡	20 (14.9)	95 (70.9)	19 (14.2)	134
信越	36 (36.5)	60 (60.0)	4 (4.0)	100
東北	19 (25.7)	47 (63.5)	8 (10.8)	74
計	284 (28.3)	635 (63.4)	83 (8.3)	1002

くの人の存在に注目する必要があるし、質問⑦の場合にも、「どちらとも言えない」と答えた20%の人々の存在を無視することはできなからう。

こうした人々の意見は、障害児優先の意見でないことは確かであり、優秀児教育に対する関心も同じようにもち、高額な費用がかかる重症心身障害児施設に対しても、消極的態度をとる可能性を充分にもち合わせている人々とみてよからう。(第7、9表)

精神薄弱児と自分の子どもとを遊ばせると自分の子どもによくない影響があると思うかという質問に対しては「思わない」とはっきり答えている母親は約40%であり、「わからない」が同じく40%強の数字を示し、悪い影響があると思う、と答えたものは、僅か4%という数字である。この数字は、前回、昭和49年度の保育園の父兄を対象にした調査の際の数字より更に少ない数字である。(第8表)

次に、障害児をもつ親達が望む、統合保育なり、教育については、第10表に示すように、賛成は約30%、反対約10%、「どちらとも言えない」約60%であり、この場合も「どちらとも言えない」が多いのが目立つ。統合保育や教育に賛成の理由として母親達があげたものの主なものは、次のようなものである。

- 子ども達の障害児に対する理解、思いやりが育つ。
- 障害児の能力を伸ばすためによい。
- 偏見や差別感がなくなる。
- 同じ子どもなのだから一緒にあつていい。
- 障害児の社会性が育つ。
- 障害児の自立心が発達する。

「どちらとも言えない」と答えた母親のあげた理由は次のようなものである。

- 障害の程度によって考えなければならぬ。

- 受入れ体制による。
- 本人が嫌がるかもしれないので。
- 一方、反対の理由としてあげられたものには、次の如きものがある。
- 子どもが劣等感をもつ。
- ついてゆけなくて、子どもがかわいそう。
- 親の世間態のために同じクラスに入れるのはよくない。
- 障害のために他の子どもに乱暴したり、クラスを乱すから。
- 子どもは、能力に応じたクラスにおくのが当然。
- 設備の面で無理。

以上の結果からみると、賛成の意見をもつ親の場合、どちらとも言えないという意見をもつ親の場合、それに反対の意見をもつ親の場合、それぞれにもっともな理由をあげているといえる。反対の意見にしても、障害児のために別にした方がよいという意見が多く、健常児にとって迷惑である、というような意見を述べるものは、ごく僅かである。しかしここに統合保育や教育の難しさがあるわけである。このことについては、保育者にきいても同じような意見がみられる。

3) 実際のかかわり

第11表から第14表は、障害児と母親との実際の関わりについてきた結果である。その質問項目は以下の4項目である。

質問(4) 街角で障害児のための募金などしているのに出会うことがありますか。

質問(6) 障害児がいじめられたり、からかわれたりしているのを見かけたことがありますか。

質問(8) 障害児のために役立つことを何かしたことがありますか。何かしてみたいと思いませんか。

質問(10) あなたのお子さんは、障害児と遊ぶことがあ

第11-1表 障害児がいじめられたり、からかわれているのを見かける事がありますか。

地域	答		計 数
	はい 数 (%)	いいえ 数 (%)	
東京都	66 (19.1)	280 (80.9)	346
関東 (東京都以外)	70 (20.1)	278 (79.9)	348
山梨・静岡	22 (16.4)	112 (83.6)	134
信越	16 (16.0)	84 (84.0)	100
東北	7 (9.5)	67 (90.5)	74
計	181 (18.1)	821 (81.9)	1002

第11-2表 その時あなたは、かばってあげますか。

地域	答			計 数
	必ずか ばう 数 (%)	かばう事 もある 数 (%)	かばわ ない 数 (%)	
東京都	38 (57.6)	28 (42.4)	0 (0.0)	66
関東 (東京都以外)	27 (38.6)	37 (52.9)	6 (8.6)	70
山梨・静岡	11 (50.0)	11 (50.0)	0 (0.0)	22
信越	6 (37.5)	10 (62.5)	0 (0.0)	16
東北	3 (42.9)	4 (57.1)	0 (0.0)	7
計	85 (47.0)	90 (49.7)	6 (3.3)	181

第12-1表 あなたのお子さんは障害児と遊ぶ事がありますか。

地域	答		計 数
	はい 数 (%)	いいえ 数 (%)	
東京都	71 (20.5)	275 (79.5)	346
関東 (東京都以外)	47 (13.5)	301 (86.5)	348
山梨・静岡	8 (60.0)	126 (94.0)	134
信越	16 (16.0)	84 (84.0)	100
東北	8 (10.8)	66 (89.2)	74
計	150 (15.0)	852 (85.0)	1002

第12-2表 その時あなたはどうしますか。

地域	答			計 数
	そのまま にする 数 (%)	やめさせ る時もある 数 (%)	やめさ せる 数 (%)	
東京都	70 (98.6)	1 (1.4)	0 (0.0)	71
関東 (東京都以外)	45 (95.7)	2 (4.3)	0 (0.0)	48
山梨・静岡	8 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8
信越	16 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16
東北	8 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8
計	147 (98.0)	3 (2.0)	0 (0.0)	150

結果の整理上、順序が逆になるものもあるが、第11表の障害児がいじめられたり、からかわれたりしているのを見かけることがあるか、という問には、「はい」とそれを肯定するものが20%近くもあり、まだまだ地域社会において障害児に対し、好ましくない行動をとる子どもが少なからず存在していることを示している。

第13-1表 町角で障害児のための募金などしているのに出合う事がありますか。

地域	答		計 数
	はい 数 (%)	いいえ 数 (%)	
東京都	219 (63.3)	127 (36.7)	349
関東 (東京都以外)	234 (67.2)	114 (32.8)	348
山梨・静岡	75 (56.0)	59 (44.0)	134
信越	58 (58.0)	42 (42.0)	100
東北	36 (48.7)	38 (51.4)	74
計	622 (62.1)	380 (37.9)	1002

第13-2表 その時あなたは、それに応じますか。

地域	答			計 数
	必ず 応ず る 数 (%)	応ず る事 もあ る 数 (%)	応じ ない 数 (%)	
東京都	22 (10.0)	168 (76.7)	29 (13.2)	219
関東 (東京都以外)	35 (15.0)	179 (76.5)	20 (8.5)	234
山梨・静岡	8 (10.7)	59 (78.7)	8 (10.7)	75
信越	6 (10.3)	51 (87.9)	1 (1.7)	58
東北	4 (11.1)	31 (86.1)	1 (2.8)	36
計	75 (12.1)	488 (78.5)	59 (9.5)	622
昭和49年度	148 (11.8)	797 (63.3)	59 (9.5)	N.A. 200 (17.5) 1259

第14-1表 障害児のために役立つ事を何かした事がありますか。

地域	答		計 数
	はい 数 (%)	いいえ 数 (%)	
東京都	65 (18.8)	281 (81.2)	346
関東 (東京都以外)	54 (15.5)	294 (84.4)	348
山梨・静岡	24 (17.9)	110 (82.1)	134
信越	12 (12.0)	88 (88.0)	100
東北	13 (17.6)	61 (82.4)	74
計	168 (16.8)	834 (83.2)	1002

そうした時の母親の対応の仕方としては、必ずかばう、と答えたものと、かばうこともある、というものがそれぞれ半数近くを占め、一応は障害児に対し母親達は好意的な態度を示している。

第14-2表 障害児のために役立つ事を何かしてみたいと思う事がありますか。

地域	答			計 数
	思う 数 (%)	思うこと もある 数 (%)	思わない 数 (%)	
東京都	66 (19.1)	234 (67.6)	46 (13.3)	346
関東 (東京都以外)	84 (24.1)	218 (62.6)	46 (13.2)	348
山梨・静岡	31 (23.1)	90 (67.2)	13 (9.7)	134
信越	15 (15.0)	74 (74.0)	11 (11.0)	100
東北	5 (6.8)	59 (79.7)	10 (13.5)	74
計	201 (20.1)	675 (67.4)	126 (12.6)	1002
昭和49年度	302 (24.0)	755 (60.0)	106 (8.4)	N.A. 96 (7.6) 1299

また、自分の子どもが障害児と遊ぶことがあるか、という問に対しては、「ある」というものが約15%であり、その遊びに介入する親はごく僅かである。つまり、遊ばせる以上は自由に障害児との交流を認めているわけである。

このような障害児との関わり方をみると、母親の態度としては、障害児に対して好意的であるものが一応は多いとみてよいが、障害児と遊ぶことがない、と答えたものが多く、この数字だけからそのことを全面的に認めることは難しい。

次に、第13表、第14表は、母親達に障害児のための募金への参加状況や、実際に彼等のために役立つことをしたいと思っているか、についてきいたものであるが、第13表をみても、募金に出会っても必ず応じるものは約10%であり、応ずることもあるというものが大半を占めている。役立つことをしたことがあるか、という問に対しても、ある、と答えたものは約15%、将来してみたいと答えたものはやや多く約20%という数字である。(第14表) この数字は、役立つことをしてみたいと思わない、と答えたものが10%以上いることからみても、今までに示された障害児に対する母親達の関心や愛情に比し、いささかその関心は低いように思える。ということは、実際の行動となると、いろいろ制約もあり、思うようにはゆかぬというわけであろう。

しかし、役立つことをしたいと思っている母親の数も決して少なくはなく、多くのものがボランティアとして働きたいとか、募金運動をしたい、施設に行って子どもと遊んでやりたいとか、いろいろな方法で、障害児への援助活動に従事したいという希望をもっている。施設を訪問して、交流や援助活動をしたいというものも多い。

第15表 精神薄弱児の大半は遺伝だと思いますか。

地域	答			計 数
	思う 数 (%)	よくわからない 数 (%)	思わない 数 (%)	
東京都	34 (9.8)	174 (50.3)	138 (39.9)	346
関東 (東京都以外)	42 (12.1)	190 (54.6)	116 (33.3)	348
山梨・静岡	27 (20.1)	63 (47.0)	44 (32.8)	134
信越	21 (21.0)	36 (36.0)	43 (43.0)	100
東北	9 (12.2)	41 (55.4)	24 (32.4)	74
計	133 (13.3)	504 (50.3)	365 (36.4)	1002
昭和49年度	489 (38.8)	620 (49.2)	133 (10.6)	A. N. 17 (1.4) 1259

(資料提供)

第16表 障害児には特別の手当(扶助料等)のある事
を知っていますか。

地域	答			計 数
	知っている 数 (%)	少しは知 っている 数 (%)	知らない 数 (%)	
東京都	167 (48.3)	104 (30.1)	75 (21.7)	346
関東 (東京都以外)	176 (51.4)	112 (32.2)	57 (16.4)	348
山梨・静岡	60 (44.8)	45 (33.6)	29 (21.6)	134
信越	52 (52.0)	30 (30.0)	18 (18.0)	100
東北	35 (47.3)	20 (27.0)	19 (25.7)	74
計	493 (31.0)	311 (31.0)	198 (19.8)	1002
昭和49年度	657 (52.1)	347 (27.6)	234 (18.6)	N. A. 21 (1.7) 1259

第17表 心身障害者のための収容施設の目的は何であると思いますか。(どれが一つの答を○で囲んで下さい)

- a) 治療教育の効果をあげるため
- b) 障害児の世話は大変なのでその家族を少しでも楽にしてあげるため
- c) 社会の人々の生活を守るため(迷惑にならぬよう)
- d) 社会の中で障害児が暮すのはかわいそうだから、障害児だけの生活の場を作ってあげるため
- e) 将来社会の他の人と一緒に生活できるようにするため

地域	答					計 数
	a 数 (%)	b 数 (%)	c 数 (%)	d 数 (%)	e 数 (%)	
東京都	77 (22.3)	38 (11.0)	0 (0.0)	14 (4.0)	217 (62.7)	346
関東 (東京都以外)	65 (21.6)	33 (9.5)	2 (0.6)	18 (5.2)	220 (63.2)	348
山梨・静岡	24 (17.9)	9 (6.7)	1 (0.7)	9 (6.7)	91 (67.9)	134
信越	24 (24.0)	2 (2.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	72 (72.0)	100
東北	12 (16.2)	10 (13.5)	3 (4.1)	3 (4.1)	46 (62.2)	74
計	212 (21.2)	92 (9.2)	6 (0.6)	46 (4.6)	646 (64.5)	1002

4) 障害児についての知識

母親達が障害児についての知識や情報を、マスコミなどから多く得ていることは前にも述べたが、実際にどの程度の知識をもっているかをきいたのが、質問(9), (8), (5)である。その結果を表にしたのが第15表～第17表である。

精神薄弱児の大半は遺伝だと思っているものが約10%、思っていないものが30～40%という数字は、決して悪い数字ではない。たしかに精神薄弱児の原因の多くは、不明のものが多いためであるが、純粋に遺伝性のもは僅かである。従って、母親達の理解の仕方は間違っていないわけである。しかし、このことは難しいことであり、先天性と遺伝との区別に迷うものも多かったこと

などが、わからない、という答を多くしたとも思われる。これも止むをえないことである。

また、障害児に対する手当の有無については、それを知っているものは約半数のものであり、この数字はやや低いといえる。全く知らないものも約20%おり、こうしたことについての母親の関心の薄さを示している。しかし、実際にわが子を障害児としてもつ親の中にも、意外にこうしたことについての知識をもたぬものもおり、情報の伝え方にも問題があるともいえる。もっとくわしい情報を日頃からマスコミなどを通じて市民に流す必要がある。

終りの第17表は、心身障害者のための収容施設が、どのような目的のもとに設置されているかをきいたもので

ある。a～eの選択肢の中から一つだけ選ばせたわけであるが、eの将来社会の他の人と一緒に生活ができるため、という答を選んだものが最も多かった。つまり、それを一つの社会生活の訓練の場と理解しているわけである。cの社会の人々の生活を守るためという答を選んだものや、dのかわいそうだから、彼等だけの生活の場をつくらせてやるため、というように答えたものは、ごく僅かのものである。その他では、治療教育のためという答のものが約20%、家族を楽にするためというものが約10%みられたが、これらの答も決して間違いではなく、母親の理解の正しさを示すものといえる。

IV おわりに

今回の調査を通じて、地域の母親達の障害児に対する関心は、かなり高いものであると同時に、その障害児親も、決して誤ったものでなく、正しく障害児というものをみている母親が多かったと云えるし、そのことは障害児の福祉ということを考えて場合、まことに喜ばしいといえる。更に、そうした障害児に対する知識や関心について、一部の例外を除き地域差というものがなく、都市と農村の間にも差がみられなかったことは非常に嬉しい

ことである。かつての社会の人々のように、障害児というものに対して、偏見と悪意にみちた目でみたり、妙な同情やあわれみの目でみたりすることもなく、冷静に、正しくそのものを理解し、援助するという姿勢をとることが可能になってきたことは、障害児の将来を考えた場合、まことにそれは歓迎すべき傾向といえよう。

しかし、そうはいつでも、まだまだ一部の母親の場合障害児の存在に対して、拒否的とまではゆかなくとも、極めて消極的な理解や受容しか示すことができないていることは否定できないし、実際の関わり方についても、もう少し積極的な参加なり、理解を望みたいわけで、今後そうした面についての母親の啓蒙活動の充実ということが大いに必要であろう。

【参考文献】

- 1) 障害幼児の福祉に関する研究 第一報、保育施設における障害幼児について、高橋種昭、野田幸江、吉沢英子他、日本総合愛育研究所紀要、第9集
- 2) 障害幼児の福祉に関する研究 第二報、障害児に関する認識調査、高橋種昭、野田幸江、吉沢英子他、日本総合愛育研究所紀要 第10集

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	

（以下は表の続きの項目と内容）

（以下は表の続きの項目と内容）